

Title	ドイツ語の前綴りanを持つ分離動詞と日本語の複合動詞「～かかる / ～かける」との対照研究
Sub Title	
Author	石野, 由梨子(Ishino, Yuriko)
Publisher	慶應義塾大学日本語・日本文化教育センター
Publication year	2016
Jtitle	日本語と日本語教育 No.44 (2016. 3) ,p.133- 133
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	大学院文学研究科日本語教育学分野修士論文要旨
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00189695-20160300-0133

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

〔大学院文学研究科修士論文〕

ドイツ語の前綴り an を持つ分離動詞と日本語の複合動詞 「～かかる／～かける」との対照研究

石野 由梨子

本論文では、ドイツ語の前綴り an を持つ分離動詞と日本語の複合動詞「～かかる／～かける」をテーマとして扱った。

ドイツ語の分離動詞とは、接頭辞部分と本動詞部分が分離する動詞のことを指す。ドイツ語の格には主格・属格・与格・対格の4つがあり、それぞれ日本語の格助詞「が」「の」「に」「を」に対応することが多い。しかし、この対応があてはまらず、与格目的語と格助詞「を」、対格目的語と格助詞「に」が対応する動詞が存在する。予備調査の結果、このような動詞には、特に前綴り an を持つ分離動詞と日本語の複合動詞「～かかる／～かける」とが対応する例が多いということが分かった。そのため本論文は、ドイツ語の前綴り an を持つ分離動詞と日本語の複合動詞「～かかる／～かける」が、どのような場合に対応するのか、また両者の意味が対応する場合、格の面ではどのような対応関係があるのかについて検証することを目的としている。前綴り an を持つ分離動詞については Kühnhold Ingeburg、複合動詞「～かかる／～かける」については姫野昌子の研究成果を援用して分析を行った。

本論文では、まずドイツ語の分離動詞と日本語の複合動詞について説明し、Kühnhold の研究におけるドイツ語の前綴り an を持つ分離動詞の分類と、姫野の研究における日本語の複合動詞「～かかる／～かける」の用法の分類をまとめたいうえで、分析を行っている。分析では、国松孝二編 (1999)『独和大辞典』から前綴り an を持つ分離動詞と複合動詞「～かかる／～かける」とが対応する全動詞を抽出し、それらの動詞がどの分類に属するかを見ることで、両者の意味上の対応を検証した。

分析の結果、ドイツ語の前綴り an を持つ分離動詞と日本語の複合動詞「～かかる／～かける」が対応する動詞は、1. おもに「主体自身が何かを発することで対象に向かって働きかける」という意味の共通点を持つ、2. 1の動詞ではドイツ語の対格目的語と日本語の格助詞「に」が対応する、3. 両者は「動作の途中段階を表す」という点でも共通する意味を持つが対応動詞は少ない、という三点が明らかになった。以上が本論文の結論である。しかし、本論文の中では個々の動詞の意味にまで踏み込んだ分析を行えなかったため、その点については今後の課題としたい。